

レセ研通信

～データ分析で見たこと～

最終回

【執筆】(一社)保険者機能を推進する会
レセプト・健診データ分析研究会

このコーナーでは、(一社)保険者機能を推進する会レセプト・健診データ分析研究会の活動で得られた知見を隔月で紹介します。

レセ研のこれから
～保険者機能の発揮のために～

■活動の振り返り

『レセ研通信』として、「腹囲-2cm・体重-2kg」の効果検証、「血圧」「血糖」「脂質」の改善効果の検証、歯科分析グループの取り組み、健診の間診回答と検査結果の関連性の検証という4つのテーマを紹介させていただきました。研究会の名称に“データ分析”が含まれており、「P→D→C→A」の「C」が中心と思われがちですが、次の「A」につながる研究活動をモットーとしています。毎年新しい発見や気づきを積み上げ、各健康保険組合の取り組みについても共有し、アドバイザーの先生からのご支援もいただいで、「数値から見えること」と「現場での肌感覚」を結びつけながら活動を続けています。

■参加メンバーの思い

参加メンバーは健康保険組合の「理事長」「常務理事」「新入事務職員」そして「医療専門職」などさまざまです。分析スキルや知識レベルは違うものの、同じ目的をもつ者同士による“フラット”な全員参加型の活動をベースとしています。年10回程度の定例研究会や年1回の1泊2日の合宿研修では、全体テーマやグループワーク活動以外にも事例共有や意見交換をしながらコミュニケーションをとっています。

また、我々の研究会活動には、内容面でも技術面でもサポートいただいている3名のアドバイザーの先生がおられます。東京大学の古井祐司先生、井出博生先生、後藤英子先生です。年間計画から月々の研究会現場でのレクチャーや参加者への個別指導など研究会運営を全面的にフォローしていただいています。

毎年恒例のレセ研合宿レポート

▼意見交換の時間を多くもてる貴重な機会です！

▼白熱した議論！
1泊2日でも時間が
足りません……▲古井先生のレクチャーを
直接受けられて、みんな
真剣です！

■最後に

このたびは、(株)法研様に我々研究会の活動の連載の機会をいただきましたことを心より御礼申し上げます。井出先生には、毎回貴重なご講評をいただきありがとうございました。このレセ研通信をとおして、自健保組合内だけでなく、外部のみなさまにもこの活動・成果を評価していただく機会をいただき、とても励みになりました。

今後も、自分たちだけでなく、保険者のみなさまにとって有意な情報発信ができるよう取り組んでまいります。

\ アドバイザーから一言 /

東京大学未来ビジョンセンターデータヘルス研究ユニット特任准教授 井出 博生 先生

1年間ありがとうございました。レセ研のメンバーと同じく、読者に活動・成果を見ていただくことが大変励みになりました。やはり健保組合のみなさまが現場で抱えている課題意識には鋭敏なものがあるので、そういったことを感じられるレセ研はアドバイザーにも学びが多い集まりです。さらに、レセ研では事例の共有だけでなく、協力し合って、データの分析を通じて、解決に近づいていくところに特徴があります。ご紹介した分析から得られた結果は客観的であり、多くの健保組合でもあてはまると思います。

日常の健保業務のなか、資料作成や分析を行っている木下リーダー（パナソニック健康保険組合）をはじめとした運営に携わるメンバーには感謝しております。私も保険者機能の強化・発揮に向け、ここで学んだことを政策につなげるような活動をこれからも続けたいと思います。健保組合全体が変わっていく、そんな広がりがある活動に読者のみなさまも参加してみませんか。